

出演者プロフィール



齋藤 友佳理 Yukari Saito

神奈川県横浜市出身。母のもとで6歳よりバレエを始め、ロシアに短期留学を繰り返して、A.メッセレルやM.セミョーノフに師事する。1987年東京バレエ団入団。詩情あふれる典雅な踊りとドラマティックな表現力でたちまち大輪の花を咲かせる。

88年ヨーロッパ公演でベジャール振付『ザ・カブキ』の顔世に抜擢され、同年のベジャール・バレエ団との合同公演で『舞楽』を踊る。92年ロシア公演では『ラ・シルフィード』をボリショイ劇場、マリンスキー劇場などで踊り、“日本のマリ・タリオニ”との賛辞を受ける。94年出産後も第一線に復帰。96年『くるみ割り人形』舞台上で大怪我に見舞われるが、98年『ジゼル』で復活を果たす。そのほか『白鳥の湖』『眠れる森の美女』『ドン・キホーテ』など古典作品に加え、ノイマイヤー振付『月に寄せる七つの俳句』『時節の色』とともに世界初演、同『スプリング・アンド・フォール』、『椿姫』パ・ド・ドウ、キリアン振付『ドリームタイム』、ベジャール振付『火の鳥』『バクチ』『くるみ割り人形』グラン・パ・ド・ドウ、アロンソ振付『カルメン』、フォーキン振付『レ・シルフィード』プレリユード、アシュトン振付『真夏の夜の夢』タイターニアなどを踊る。また、91年の第6回世界バレエフェスティバルでファルフ・ルジマートフと、2000年の第9回世界バレエフェスティバルでセルゲイ・フィーリンと共演。ウラジーミル・マラーホフとは99年と04年に『ジゼル』で共演。05年は平成16年度芸術選奨文部科学大臣賞（舞踊部門）の受賞記念公演 ユカリューシャ でマニュエル・ルグリと『椿姫』パ・ド・ドウを、マチュー・ガニオと『ラ・シルフィード』、首藤康之と『カルメン』の抜粋を踊った。06年には ユカリューシャ 『ジゼル』でフィーリンと共演、『ドナウの娘』東京バレエ団初演に主演。07年は『ザ・カブキ』の顔世御前、『ラ・シルフィード』主演、また『ジゼル』をフリーデマン・フォーゲルと共演した。08年は『時節の色』の“思い出”、『ドナウの娘』主演、『ザ・カブキ』の顔世御前を踊ったほか、『ジゼル』をマニュエル・ルグリと共演した。09年はマカロワ版『ラ・バヤデーラ』東京バレエ団初演でニキヤを演じている。

海外での客演は、91年リトアニアの国立オペラ・バレエ劇場での『ジゼル』、98年ロシアのチェリャーピンスク国立オペラ・バレエ劇場『ジゼル』、ワシーリエフ振付『アニュータ』、04年2月モスクワのクレムリン大会宮殿でマクシーモワ65歳記念ガラなど。05年には高岸直樹とともにリトアニア国立オペラ・バレエ劇場80周年ガラで『椿姫』パ・ド・ドウ、セルビア国立劇場で『ジゼル』、06年5月再びセルビアで『ジゼル』に出演。07年3月にもセルビアで『ジゼル』を踊った。

02年、それまでのダンサーとして、母として、一人の女性としての思いをつづった「ユカリューシャ」を世界文化社より上梓。09年、バレエ教師の資格を取得するために学んでいた、ロシア国立舞踊大学院バレエマスターおよび教師科を首席で卒業。



木村 和夫 Kazuo Kimura

熊本県出身。8歳でバレエを始める。1984年東京バレエ団に入団。86年ベジャール振付『ザ・カブキ』初演では16歳で力弥を初々しく演じた。89年にはノイマイヤーの新作『月に寄せる七つの俳句』で振付家自身の指名により主役の座を射止める。

93年の『M』では三島の分身“ - サン”を初演。94年キリアン振付『ステッピング・ストーンズ』、96年『ペトルーシュカ』の友人、『火の鳥』タイトルロール、『春の祭典』のリーダーなど主要な役を任せられ、97年と98年には『くるみ割り人形』sha 全幕の王子役で好評を博した。98年『タムタム』で主役のソロ、2000年ノイマイヤー振付『時節の色』世界初演で“時”、ベジャール振付『バクチ』バレエ団初演ではシヴァを踊った。明確なテクニックと気品ある踊りで観客を魅了する男性舞踊手である。

そのほか、『白鳥の湖』パ・ド・トロワ、スペイン、『眠れる森の美女』青い鳥、4人の王子、『くるみ割り人形』スペイン、『水晶宮』第2、第3楽章のエトワール、『白の組曲』マズルカなどを踊る一方、『くるみ割り人形』のドロツセルマイヤー、『ジゼル』のヒラリオン、『白鳥の湖』のロットバルト、『ザ・カブキ』の師直など個性的な役でも独特の存在感を見せる。2000年『ドン・キホーテ』初演でバジルとエスパーダ、02年『白鳥の湖』主演、03年『ギリシャの踊り』東京バレエ団初演でハサピコを踊った。04年『中国の不思議な役人』東京バレエ団初演では中国の役人を踊り絶賛を浴びた。『レ・シルフィード』で詩人、『エチュード』でエトワールを踊った。05年は『真夏の夜の夢』オベロン、『スプリング・アンド・フォール』主演など、06年は、マラーホフ新演出『眠れる森の美女』でフォーチュン王子、ベジャール=ディアギレフでは『薔薇の精』タイトルロールを初めて踊った。また、『白鳥の湖』と『ドナウの娘』東京バレエ団初演に主演した。ベジャール振付『くるみ割り人形』ではパリを初めて踊る。07年、『ラ・シルフィード』初主演したほか、『バレエ・インペリアル』『テーマとヴァリエーション』に主演。08年、『スプリング・アンド・フォール』『ドナウの娘』『火の鳥』に主演したほか、『時節の色』“時”を踊っている。09年、『白鳥の湖』『月に寄せる七つの俳句』『タムタム』主演、『鳥』東京バレエ団初演でソロを踊ったほか、マカロワ版『ラ・バヤデル』東京バレエ団初演でソロル、ラジャを演じている。



高村 順子 Junko Takamura

神奈川県横浜市出身。5歳よりバレエを始める。14歳のときに第13回神奈川芸術祭『ドン・キホーテ』全幕の舞台でキューピッドを踊る。1992年に東京バレエ団入団。清楚で可憐な個性を活かして数々の重要な役どころを踊る。

93年の『白鳥の湖』で初舞台を踏み、95年には『眠れる森の美女』で“のんきの精”に選ばれる。以後、97年の『白鳥の湖』で4羽の白鳥、『くるみ割り人形』でコロンビーヌ、フランス、98年の『眠れる森の美女』でサファイアの精、白い猫など、クラシックの全幕作品で主なソリスト役を務めるようになる。

99年ベジヤール振付『くるみ割り人形』東京バレエ団初演では、振付家より“妹のクロード”に選ばれる。2000年ノイマイヤー振付『時節の色』世界初演のメンバーに選ばれ、またベジヤール振付『ドン・ジョヴァンニ』ではヴァリエーション1を踊る。01年には『ドン・キホーテ』初演でキューピッドを踊り、好評を博した。秋の全国縦断公演では『テーマとヴァリエーション』のソリスト役を踊る。02年『白鳥の湖』ではパ・ド・トロワを初めて踊った。05年は『ラ・シルフィード』パ・ド・ドゥ、『真夏の夜の夢』ハーミア、『眠れる森の美女』気前よさの精、フロリナ姫、『M』円舞曲、『春の祭典』の若い娘、『ドン・ジョヴァンニ』ヴァリエーション3、『ギリシャの踊り』パ・ド・ドゥ、『シンフォニー・イン・D』を踊った。06年、マラーホフ新演出『眠れる森の美女』でカナリアの精、フロリナ姫、『薔薇の精』バレエ団初演で少女を初めて踊る。

『ドナウの娘』東京バレエ団初演ではパ・ド・サンクを、ベジヤール振付『くるみ割り人形』では妹のクロードのほか、中国(バトン)を初めて踊った。07年、『ザ・カブキ』現代のおかるを初めて、『薔薇の精』少女を踊った。08年には『火の鳥』パルチザン、『ドン・キホーテ』キトリの友人を初めて踊った。09年、『月に寄せる七つの俳句』、『タムタム』、マラーホフ版『眠れる森の美女』ダイヤモンドを踊ったほか、『鳥』東京バレエ団初演に出演、マカロワ版『ラ・バヤデール』東京バレエ団初演で影の王国第1ヴァリエーションとパ・ダクシオンを踊っている。

10年1月『ラ・シルフィード』でパ・ド・ドゥを踊っている。



井上 良太 Ryota Inoue

神奈川県横浜市出身。14歳よりバレエを始める。2006年、東京バレエ団に入団、同年フォーキン振付『ペトルーシュカ』で初舞台を踏む。

06年『ドナウの娘』東京バレエ団初演に出演したほか、ベジヤール振付『くるみ割り人形』ではボーイスカウト、中国（自転車乗り）などを踊る。07年には、『ドン・キホーテ』でセギディーリャを、ルグリと輝ける仲間たち『白鳥の湖』でワルツを初めて踊っている。08年には第23次海外公演で『火の鳥』パルチザン、『ザ・カブキ』力弥に選ばれたほか、『ギリシャの踊り』『春の祭典』などに出演。09年、マラーホフ版『眠れる森の美女』でポロネーズを踊り、ベジヤール・ガラで『ボレロ』、『ペトルーシュカ』で3つの影を、つづく『白鳥の湖』でチャルダッシュ、『ジゼル』でパ・ド・ユイットを初めて踊った。またマカロワ版『ラ・バヤデール』東京バレエ団初演では6人の苦行僧、『くるみ割り人形』で兄フリッツを初めて演じている。

このほか、『ラ・シルフィード』『時節の色』『ジゼル』『中国の不思議な役人』『エチュード』『タムタム』『バクチ』などに出演。

10年1月、『ラ・シルフィード』で青年たちを踊り、2月 マニユエル・ルグリの新しき世界で『クリアチュア』東京バレエ団初演、『ホワイト・シャドウ』世界初演に出演している。



平野 玲 Ryo Hirano

兵庫県出身。幼少の頃よりピアノやクラシック音楽に親しむ。宝塚北高校演劇科に入学し、バレエや演技、狂言などの伝統芸能、歌唱などを学ぶ。1993年大阪芸術大学舞台芸術学科舞踊コースに入学。96年1月、東京バレエ団に入団。

ベジヤール振付『ペトルーシュカ』東京バレエ団初演のリハーサルに参加して刺激を受け、同年2月のベジヤール＝ストラヴィンスキー 公演で初舞台を踏む。『水晶宮』第4楽章のソリスト、『テーマとヴァリエーション』のソリストなどで端正な踊りを見せる一方、『眠れる森の美女』のカラボスの従者、『白鳥の湖』のチャルダッシュ、マズルカ、『くるみ割り人形』のねずみの王様、花のワルツといった躍動感ある役を任されるようになり、2001年『ドン・キホーテ』東京バレエ団初演では闘牛士、ジプシーで熱のこもった舞台づくりに貢献する。03年『ギリシャの踊り』東京バレエ団初演でパ・ド・ドゥを踊る。同年 奇跡の響演 とそれに次ぐシルヴィ・ギエムとの全国公演において『春の祭典』の二人の若い男、『火の鳥』のパルチザン、『白の組曲』のプレスト、04年『ペトルーシュカ』では3つの影、『ザ・カブキ』では現代の勘平と次々と主要なソリスト役を踊る。『ジゼル』ではパ・ド・ユイットを、『くるみ割り人形』ではピエロとアラビアを初めて踊った。05年は『真夏の夜の夢』ボトムとライサンダー、『スプリング・アンド・フォール』、『眠れる森の美女』長靴をはいた猫、『M』円舞曲、『春の祭典』二人のリーダーを踊った。06年は、マラーホフ新演出『眠れる森の美女』で牡猫、ベジヤール＝ディアギレフ ではフォーキン振付『ペトルーシュカ』ムーア人を、『ドナウの娘』東京バレエ団初演では伝令官を、ベジヤール振付『くるみ割り人形』で光の天使、パリを初めて踊った。07年は、『ザ・カブキ』塩冶判官に初めて挑戦したほか、『中国の不思議な役人』無頼漢の首領、『ラ・シルフィード』マッジ、『カルメン』ツニガ、『ステッピング・ストーンズ』を初めて踊る。08年、海外公演で『舞楽』を初主演したほか、『時節の色』“男のさまざまな時節”、『ドン・キホーテ』ガマーシュを初めて演じている。09年、『ペトルーシュカ』友人、『中国の不思議な役人』無頼漢の首領を演じたほか、第12回世界バレエフェスティバルの特別プロ『ドン・キホーテ』でガマーシュ、『ルーミー』東京バレエ団初演に出演し、マカロワ版『ラ・バヤデーレ』東京バレエ団初演でパ・ダクシオンを踊っている。

10年1月、『ラ・シルフィード』でマッジを演じている。

チャイコフスキー記念東京バレエ団 The Tokyo Ballet

東京バレエ団は1964年に創設、3年目の1966年には早くも当時のソビエト政府に招かれ、モスクワ、レニングラードで公演を行った。この成功によりソビエト文化省より“チャイコフスキー記念”の名称を贈られた。創立以来一貫して、古典の全幕作品から現代振付家の名作まで幅広いレパートリーを誇っている。なかでも現代バレエ界を代表する三大振付家 モーリス・ベジャール（『ザ・カプキ』『M』）、イリ・キリアン（『パーフェクト・コンセプト』）、ジョン・ノイマイヤー（『月に寄せる七つの俳句』『時節の色』）が東京バレエ団のために新作を振付けており、これらの作品はいずれも国内外で大きな成功を収めている。01年6月にはウラジーミル・ワシーリエフを振付・演出に迎えて『ドン・キホーテ』を初演し絶賛を博した。03年11月には『春の祭典』『火の鳥』『ボレロ』でダニエル・バレンボイム指揮シカゴ交響楽団との共演を果たした。04年よりベジャールを名誉芸術顧問に迎え、就任を記念して新たに『中国の不思議な役人』が贈られた。05年5月には、初めてのフレデリック・アシュトン作品である『真夏の夜の夢』をアンソニー・ダウエルの指導のもとバレエ団初演した。

東京バレエ団はこれまでに、日本の舞台芸術史上始まって以来の、23次689回の海外公演を行っており、“日本の生んだ世界のバレエ団”として国内外で高く評価されている。30カ国145都市を巡り、とくにパリ・オペラ座、ミラノ・スカラ座、ウィーン国立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラなどヨーロッパの名だたる歌劇場に数多く出演し絶賛を博した。また、旧ソ連の三大歌劇場（ポリショイ、マリインスキー、シェフチェンコ）における公演では“謙虚に東京バレエ団に学ぶべきだ”との高い賛辞を獲得した。98年には初の南米公演を実施し、南半球随一の歌劇場コロン劇場をはじめ、アルゼンチン、ブラジルの名門歌劇場を満員にした。99年には2カ月半に及ぶヨーロッパ公演を行い、ベルリン国立歌劇場での『ザ・カプキ』は海外公演600回を達成する記念すべき舞台となった。01年には南米とヨーロッパにまたがる2カ月の海外公演を、02年には中国公演（『ジゼル』）を行い好評を博した。フィレンツェ五月音楽祭への参加を含む、04年5月～7月のヨーロッパ公演では『ドン・キホーテ』と『ボレロ』などベジャール作品を上演し大成功を収める。06年5月には第22次海外公演を行い、ベルリン、コペンハーゲンで大きな喝采を浴びた。また、07年に『ドナウの娘』日本初演などの舞台成果に対し、第6回朝日舞台芸術賞を受賞した。08年5月～7月にはベジャール追悼特別公演の一環としてヨーロッパ6カ国9都市で公演を行い、各地で高評を博した。09年、創立45周年を迎え、マカロワ版『ラ・バヤデーラ』を初演した。10年2月には2作目となるアシュトン作品『シルヴィア』を初演した。